

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200074		
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会		
事業所名	グループホームひめど		
所在地	熊本県上天草市姫戸町姫浦2544-6		
自己評価作成日	平成27年3月17日	評価結果市町村受理日	平成27年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常の散歩コースに、中学校や商店、郵便局、美容室、市役所の支所があり、買い物や理美容室の利用、選挙の投票など手近にすまることができる。また、漁師町で、屋上からは不知火海と島々が見渡せ、近くには桜の名勝地もあり自然も豊かである。そして、ホームの階下は医院があり、医療面での連携も密に行える。運営面では、ISO 9001:2008の認証を取得しており、記録システムの導入、接遇講師を招いての研修会、エビデンスケアに基づくケアの提供についての勉強会の実施など、継続的にサービスの改善・向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* 住宅街の一角にある内科医院の2階にあり、馴染みの商店・スーパー、神社・公園も多く、買い物や散歩にも恵まれている。また、健康管理・状態変化等には1階の医院と連携があり、支援が受け易く安心できる環境となっている。* 誕生日は、一人ひとりの祝い方・過ごし方の希望を聞き取り、思いを叶える支援に努め、介護計画も本人の意見や要望を大切に本人本位のサービスに取り組んでいる。
* 法人全体で取り組んでいるISO9001:2008の認証取得後、グループホームにおける運営も品質システムに沿って行われ、毎年度事業計画が作成され、組織的な取り組み、科学的な根拠に基づくサービスの提供等が図られている。また、「職員満足度調査」を年2回実施し、職員用トイレに設置された「意見箱」等で、職員の意見が言いやすい環境作りに努め、働きやすい職場整備にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目のつくところに掲示し、毎年度の事業計画にも盛り込み、取り組み項目としている。	開設時のスタッフで、理念を「助け愛、励まし愛、微笑み愛」と定めている。26年度は、大幅なスタッフ異動があったことを機会に、新メンバーと共に自分達が目指すホームの在り方や、理念について、フロア会議で話し合っている。	パンフレットには法人の理念が記載されており、ホームの理念は見られなかったため、次回パンフレット作成時には、ホームの理念も表示することが良いと思われた。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	男性職員は地域の消防団に入団し、地域活動を行っている。また、夜間の蛍鑑賞や菖蒲の花見などは地区の方から観ごろを教えていただき出かけている。地区敬老会にも話し合いの段階から声をかけていただき参加している。	開設から9年目を経て、地域におけるホームの認知度も高まり、地域の一員としての活動・貢献に努めている。27年度は、①環境委員と連携しての清掃活動、②消防団・婦人会等団体活動への参加、③認知症サポーター養成、④認知症相談対応等を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生をはじめ、地域の方へ、認知症サポーター養成講座等積極的に開催の協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録は職員で回覧し、周知を図り、必要に応じて職員間で検討し、改善や質の向上につなげるようにしている。運営推進会議のメンバーの方がゲームに参加されたり、お手玉作りの材料を提供して下さったりの協力もある。	市役所担当者・公民館長・区長・老人会長・民生委員・入居者・家族等の参加で実施されている。行事や活動報告の他、情報交換・意見交換が行われている。	運営推進会議の終了時に、次回の日程とテーマを伝えることで、委員も参加のために情報を集めたり、意見の準備ができ、より充実した会議となると思われる。また、事業計画書の説明も、より入居者に関係ある内容を回数を分けて伝えることで、家族も理解しやすいのではないかとと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき助言をいただいている。	運営推進会議には、市の高齢福祉課・地域密着型サービス担当者が出席し、会議の在り方についてアドバイスを得たり、行政からの情報等が得られている。	地域福祉の推進役である市職員の、新任研修等に事業所を活用してもらうことは、実践現場を把握し、職員や入居者と交流することに大いに役立つと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、法人全体で取り組んでいる。	職員は、法人全体で実施される勉強会に参加し、身体拘束をしないケアの意識づけに努めている。言葉使いが命令的になっていないか、抑制的になっていないか、常に振り返ることを職員に促している。エレベーターの乗降・階段からの入り口等はチャイムを使用して、見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の会議や委員会に於いてケア内容を振り返り検討する機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、理解を深めるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとっていただき説明を行いながら疑問や不安な点がないか確認をするようにしている。法改正時には、説明会を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議や毎年度4月に行っている事業計画説明会において、意見要望をうかがう機会としている。	家族からは、入居者が法事に参加するための送迎依頼や、歩行訓練の希望等、日常的な要望が出される程度となっている。家族が参加しやすい日程で、運営推進会議を開催したり、年度初めの事業計画説明会を開くなど、家族との意見交換の場を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度調査や人事考課時、毎月の部署内会議において意見・要望を聞く機会とし、対応策について検討している。	年に2回、法人全部の事業所で、職員アンケートを行い意見や提案を無記名で提出することができる機会がある。回答は、「接遇委員会」と「ISO」の担当者等で集計され、結果を施設長に報告し、施設長が回答する仕組みが作られている。また、職員用トイレには、意見箱が設置されており、無記名での意見が投函でき、職員の意見を大切にする事業所の姿勢が伺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と個人面談により評価を行っている。また、毎月の安全衛生委員会で職場環境や心身の状況などの把握や、対応に努めている。産業医との面談の機会も年2回確保されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や力量に応じて年間研修計画を作成している。また、介護福祉士の資格取得に向けて、バックアップ体制があり、職能団体での生涯学習においても年会費の半額補助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通しての交流や懇親会の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前にご本人を訪問したり、ご家族と面談を行ったりと関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込や契約時には時間を取り、ゆっくりと話を聞かせていただき、入居後も様子報告をさせていただきながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談やアセスメント時に、どのような暮らしを望まれているのかを、ご本人やご家族にうかがい把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのできる事に応じて、洗濯物干しやたたみ、料理や買い物、掃除など日々の役割として手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や外出、病院受診などご家族が関わってくださる場面がある。また、ご家族に日常の様子など安心感につながる場面なども伝え関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの飲食店や商店、美容室また、お寺や神社へのお参りなど地域への外出支援を行っている。面会時は居室へご案内し、ゆっくりと話ができるようにしている。	馴染みの美容室で昔から好きな髪形に、お彼岸には檀家としてお寺参りに、行きつけの神社に初詣に、行きつけの飲食店に外食に、住んでいた町までドライブに等々、これまで大切にしてきたこと、懐かしい場所との関係継続を大切にしたい支援が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や性格など情報として職員間で共有している。また、皆の輪に入りにくい方へは職員が橋渡しをしたり、座る場所を配慮したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される場合は、ご本人・ご家族の安心が得られるように関係者と連携を行っている。また、退所された後もしばらくは、ご家族や関係機関からの相談等にも応じるなどフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所以前より、ご本人・ご家族から情報を得たり、日常の会話や日々の関わりから把握し、職員間でも情報を共有し意向の把握に努めている。	アセスメント様式に情報を入力し、担当者と管理者の気付きを加えて職員間で共有している。相性の良し悪しによる座席の配置、言葉で表現できなくても麺類は食が進む様子、誘い方によって入浴がスムーズに行った例など、日頃の過ごし方を観察し、得られた希望や意向は記録に加え共有されている。また、「誕生日はどのように過ごしたいですか」と訊ね、意向に沿った過ごし方で誕生日を祝い、プレゼントとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から直接うかがったり、プライバシーに配慮し乍ら、ご家族や関係機関にもご協力いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルサインチェックや聞き取りなどで心身の状態を確認し、その日一日の様子などもその都度記録し、申し送りを行う事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや介護計画のモニタリングなど、担当職員が関わり、ご本人、ご家族とも話をしながら作成している。また、毎月の定例会議ではケア内容について検討している。	本人の意向を聞き取り、要望を組み入れる「本人本位」の介護計画作成と評価を大切にしている。計画書の援助内容には、「～に会いに行く」「～に買い物に行く」「小遣いが持てるようになる」「自宅を見に行く」等、一人ひとりの暮らしが楽しく、元気が出るような支援計画となっており、入居者の幸せそうな暮らしが推察できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ソフトを活用し、日々の様子や気づき等の情報を共有している。また、情報はデータ化し、ケアの見直しや評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、帰省の送迎を行ったり、誕生日はご本人の希望に沿った内容で行っている。また、グループホームの多機能化として、次年度から共用型デイを行うよう準備を進めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に商店や郵便局、お寺・神社などがあり、希望に応じて出かけている。また、地域の運動会の見学や敬老会・学校の七夕行事への参加、花見外出等を季節ごとに、地域の方や母体施設と協力しながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や窮乏時は階下の医院を利用しているが、専門医の受診が必要な時は、紹介状を書いてもらい、ご家族の協力をいただきながら受診している。	ホームは、内科医院の2階にあり、日々の健康管理や状態変化等に相談・支援が得られる恵まれた環境にある。耳鼻科・歯科・循環器科等の専門医への継続受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下が医院であり、日頃から細かな体調の変化などについてもすぐに相談できる。休日や夜間にも主治医へ相談ができ、指示を仰ぐことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を定め、入院や緊急時の受け入れをしていただいている。入院された場合は、病院への面会を行うとともに関係者との連携も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族が最期までグループホームで過ごしたいと希望された際には、現時点でどういった支援が可能であるか、難しいのかの説明や話し合いを、主治医を含めて行い方針を共有している。また、母体施設のバックアップも得ることができる。	本人・家族の思いを聞き取り、希望があれば職員間で話し合い、出来ること・出来ないことを整理して、家族と主治医を交えた話し合いを行い対応を決めることにしている。これまで2人の入居者の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署の指導を受けながら緊急時の対応訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、自主防災訓練を年4回行っている。また、階下の医院との合同防災訓練を年2回実施している。また、男性職員は消防団へ入り、地域との協力体制を築いている。	緊急通報ボタンを押すことで、消防署・役場・地域消防団へ通報され、理事長・近隣の母体特養にも連絡がいくシステムが出来ており、地域との連携体制も築かれている。屋内の壁やカーテンは防災加工が施され、スプリンクラーも整備されている。	防災訓練で把握された課題や、専門家のアドバイスは、次の訓練時に実行することで、改善に繋がると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で、年2回接遇講師を招いて勉強会を行い、また、日々を振り返る機会として「接遇ロールプレイング大会」を開催している。	毎年法人全体で実施される「接遇ロールプレイング大会」では、事業所毎のチームが自分達でテーマを設定し、シナリオを書いて「接遇」を意識した対応を披露し、専門家・施設長・職員から評価を受ける機会となっている。指示口調にならない言い回し・入居者と同じ目線での対応など、日々のケアを振り返り、サービスの質の確保に向けての取組が継続的に実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的に声かけを行い、思いや希望の把握に心掛けている。日常の意思決定についても、せかさず、押し付けにならないようゆっくりと考えていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の習慣や性格・体調に応じた支援を行うようにしている。外出や個別の希望については、その日にできない場合は、いつできるのかを説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は髪を整えたり、髭剃りをしたりの援助をしている。排泄後も身だしなみが整うようにしている。また、誕生会や敬老会など特別な日は、ご本人・ご家族と相談し、数日前から着る服を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し職員間で共有している。買い物と一緒に出掛けたり、料理についても味付けやコツなどを教えて頂きながら作り、食器洗いなども手伝っていただくこともある。	「今日何が食べたいですか」「一緒に買いに行きましょうか」と会話しながら、調理・味付けを職員と協働で準備する家庭的な風景が見られた。訪問調査日の昼食として出された「ちらし寿司」は、入居者の手作り、主菜の野菜のてんぷらには、散歩で採ってきたヨモギも揚げてあり、季節感たっぷりの美味しい食事となっていた。入居者の思いに配慮し、一緒に作る楽しさを支援する職員の優しさを感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量等は記録システムの活用により随時把握し、飲食がすすまない時は、時間をずらしたり、食べたいものの聞き取りを行っている。また、個人に応じた食べやすい工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり洗面所へ誘導し、口腔ケアの支援を行っている。自分でできない方へは職員が介助を行い、夜間は、入れ歯洗浄剤で洗浄除菌をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状態、間隔、排泄用品を情報として把握し共有している。その上で、トイレへの誘導や支援を行い、気持ちよくすごしていただけるようにしている。	ひとり一人の状態に沿ったトイレへの誘導に努めており、心地よい排泄を支援している。夜間、状態に応じてポータブルトイレの使用はあるが、現在、おむつの使用はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	法人内で排泄の勉強会があり、その学びを食事や運動に取り入れるようにしている。排便の間隔については、記録システムを活用し毎日把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はプライバシーにも配慮し、一人ひとり、安全にゆっくり入っていただけるように心がけている。そのため、入浴できる人数や時間帯が限られてしまう事もあるが、可能な限り、希望があれば入浴できるように努めている。	脱衣・入浴・着衣まで、一人ずつの入浴を介助し、プライバシーへの配慮を大切にしている。浴槽は、2時間を目安に洗い、塩素濃度を測りながら、清潔な湯で気持ち良い入浴を支援している。また、薔薇の花びら・ゆず・菖蒲・夏みかん等を浮かべて、香りや季節を味わう楽しい入浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて、居室で休んでいただいたり、リビングソファでくつろいでいただいたりしている。夜間は空調にも気を配り、寝具も清潔を心がけ、気持ちよく眠っていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師の指示内容や薬剤の情報については個人毎にファイルし、状態やそれに伴う薬剤の変更等を随時把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや調理の下ごしらえなどは入居者様の日課となっている。料理が得意な方は作ってくださることもある。嗜好品については、近隣の商店に買いに出かけたり、隣町から職員が購入してきたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で隣町まで食事や買い物に出かけたり、お寺に、故人のお参りに行ったりの支援も行っている。また、花見外出や文化祭見学等季節ごとの外出も行っている。日常的に、短時間でも外出できるよう心がけている。	近隣に公園や由緒ある神社も多く、天気の良い日は散歩に出かけて風を感じ、季節を味わう支援に努めている。桜・菖蒲・イチョウなど、季節ごとの花見も入居者の楽しみとなっている。郵便局にハガキを出しに、銀行にお金をおろしに等、日常的な外出支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と相談し、所持されている方、外出や必要な時に手渡す方など一人一人に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のはがきを手書きし、ポストに投函したり、事業所の電話でご家族と話したりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、また、壁面飾りを作ったりし、季節感や生活感を出すようにしている。リビングは必要ない時はテレビを消し、会話したり、静かにくつろげるようにしている。	医院の2階に病棟として設計された屋内を、優しいピンクや黄色の色彩でまとめ、明るい雰囲気居住空間として使用している。利用者や職員による生け花や、鉢植えが廊下や洗面台など、コーナーごとに飾られており、明るく清潔感がある。廊下の一角にある小さい水槽にはメダカも元気に泳いでいる。リビングや居室の窓からは、ご近所の様子も覗え、ゆったりと安心して過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置したり、談話コーナーを設け、一人で過ごしたり、気の合う人と話が出る場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やたんすなど使い慣れた家具を持ってきていただいたり、写真などを飾って居室環境を整えたりと、ご本人が居心地よく過ごせるようにご家族の協力がある。	居室は、白岳・念珠岳など馴染みの地名を表示し、其々の入り口には、家族と相談して用意した暖簾やカーテンを下げて自室の確認を容易にしている。ベッドの横臥状態から入り口に置かれた歩行器使用まで、自力で安全に到達できるように配慮した椅子やソファの設置に工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて、手摺の設置や居室、共用空間の模様替えを随時行っている。トイレや自室が分かりやすいよう、表示したり暖簾をかけたりにしている。		